

| 著書，学術論文等の名称 | 単著 共著 の別 | 発行又は発表 の年月 | 発行所，発表雑誌 等又は発表学会等 の名称 | 概 要 |
|---|----------------|---------------|--|--|
| 1 (学術論文) 医療用医薬品の流通分析:卸 の機能と情報提供サービスに 関する実証研究 | 共著 | 2016年12月 | 『流通研究』第19巻 第1号, pp.15-24, 日本商業学会. | 論文全体の概要:病院と薬局に勤務する薬剤師 を対象として医薬品の取引形態や卸による情報 提供の価値に関するアンケート調査を行い,分 析した。施設数の規模や取引卸数が総価取引 に大きな影響を与えることが示された。 (総ページ数:10ページ) (櫻井秀彦・丹野忠晋・増原宏明・ <u>林行成</u> ・恩田 光子・山田玲良) 共同研究につき本人担当分抽出不可能 |
| 2 (学術論文) DPC/PDPS におけるインセ ンティブ 《筆頭論文》 | 共著 | 2016年3月 | 『医療経営論叢』, 第9号, pp.35-50, 広島国際大学. | 論文全体の概要:DPC/PDPS による診療報酬支 払制度がアメリカでの DRG/PPS による支払制度 と比較して,医療機関に平均在院日数短縮によ り強いインセンティブを与える影響を,経済理論 的視点から考察した。 (総ページ数:16ページ) (<u>林行成</u> ・前田隆二) 共同研究につき本人担当分抽出不可能 |
| 3 (学術論文) 保険者医療費データによる生 涯医療費シミュレーションのた めの統計理論 | 共著 | 2016年2月 | 『日本医療経営学会 誌』,第9巻第1号, pp.47-56,日本医療 経営学会. | 論文全体の概要:本論文は,診療報酬明細書 を用いての生涯医療費の推計シミュレーションに 関する統計学上の問題を整理した上で,問題点 を回避できる統計理論として,セミパラメトリックな 乱数の発生方法とシミュレーションについて検討 した。 (総ページ数:10ページ) (増原宏明・小西幹彦・丁井雅美・ <u>林行成</u>) 共同研究につき本人担当分抽出不可能 |
| 4 (学術論文) 医療用医薬品流通における 交渉力と薬価基準制度 | 共著 | 2015年3月 | 『応用経済学研 究』,第8巻, pp115-127,日本応 用経済学会. | 論文全体の概要:現行の薬価基準制度のもと, 医療用医薬品流通における卸と医療機関の交 渉力がメーカーの利潤にどのような影響を与 えるかを検証した。特に,現行の薬価改定ルー ルの下では,メーカーは卸に交渉力がある方 を好み,卸の交渉力を高めるよう流通に介 入するインセンティブを明らかにした。 (総ページ数:13ページ) (丹野忠晋, <u>林行成</u>) 共同研究につき本人担当分抽出不可能 |
| 5 (学術論文) 医薬品流通網に対する医療 経済学的評価の構築 《筆頭論文》 | 単著 | 2014年12月 | 技術情報教会編 『医療経済評価の具 体的な活用法』 第4章第2節, pp.134-144, 技術情報教会. | 論文全体の概要:薬価基準制度と医薬品流通 との関係性や,現在の取引慣行についてまと めた。特に,薬価基準制度における価格改定 ルールにおける医薬品メーカーの仕切り価格 の設定に関する戦略性について,需要・供給 分析を実施し,メーカーの戦略性が医薬品の 需要の価格弾力性によっても異なることを示 した。 (総ページ数:11ページ) |